

挨拶



早稲田大学 産業経営研究所所長 中村 信 男

皆さん、こんにちは。当研究所所長の中村でございます。本日は当研究所主催の産研フォーラムにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。早稲田大学産業経営研究所は、1974年に本学の商学部における産業と経営の中心的な研究機関として設立されまして、今日に至っております。今年が研究所設立四十年目に当たりまして、この間、研究所に所属する私ども研究者は、企業や産業に関して、幅広い領域にわたり、いろいろな研究を続けてきたわけでございます。その一環として、この産研フォーラムは、そのときどきの先端的なテーマを取り上げ、研究所に所属する研究者に、経済社会で活躍されている方々を交えて、理論面と実務面の両面から検討を加えて、種々の成果を挙げてきたというところでございます。

四十回目ということで節目となります今回は、商学部の鶴飼信一教授がコーディネータとなり、先ほど恩蔵理事から話がありましたように、「ベンチャー起業家の輩出を通じたイノベーションの創出」というテーマで、問題提起、事例報告、そしてパネル・ディスカッションを行うものであります。趣旨はお手もとの産研フォーラムのパンフレットの裏面に所長挨拶がございまして、そこに記載されておりますので、この場で改めて説明をすることは割愛させていただきますが、わが国の経済や社会が発展を続けていくためには、新たな産業をつくり出し、その担い手となる起業家を世の中に輩出するということが求められていることは言うまでもありません。

起業家の輩出という点では、私ども大学関係者に非常に大きな課題というものが突きつけられているわけでありまして、今回のフォーラムは、起業家の輩出のために、大学、そしてビジネス教育に携わる教員、それからその教育の受け手となる学生の皆さんが、どういう問題意識で、どういう課題に対処して取り組んでいけばいいのかということをも明らかにして、今後の方向性を示すものと確信しています。

折しも早稲田大学は先般、文部科学省のグローバルアントレプレナー育成促進事業（EDGEプログラム：Enhancing Development of Global Entrepreneur Program）というものの実施大学に採択されております。これは日本でのイノベーション創出の活性化に向けて、大学などの研究開発成果をもとにベンチャーをつくり出していくということだけではなく、新事業をつくり出し、支えていく人材の育成に貢献することが、本学に非常に期待されているところであります。

したがって、今回の産研フォーラムはそうした関係で、極めてタイムリーな企画でありまして、本学として、今申し上げた起業家育成促進事業をするキックオフになるものと思っており、その意味で非常に有意義な企画だと考えております。

本日ご出席の皆様には、このように非常に大きな意義を持った産研フォーラムに、なるべく最後までおつき合いをいただきまして、有意義な会にしていただけますようお願いを申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。